

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 BEAM		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 1日		～ R8年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	R8年 1月 1日		～ R8年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<自由な過ごし方> 余暇時間を有意義に過ごしていただけるように活動に幅を持たせている	ストレスフルに帰ってくるお子さんたちに対して、プログラムで縛ることなく節度を保った自由を過ごせるように配慮しています。	児がお互いを尊重し、共存できるような橋渡しをスタッフができるようにサポートを行えるよう個別ケースを話し合っていく。
2	<広いスペースで活発な活動> ドッジボールや鬼ごっこができる広いスペースを活かしたダイナミックな活動をおこなっている	広いスペースを使って遊びごとに区分けを行い複数の遊びが同時に展開できるようにしている	色分けや床のマットを変えるなど目に見える形で、エリアわけができるとうい
3	<年齢層の近さ> 年長さん～小学校3年生を大多数が占めているため、年の近い子供たちで交流がはかれている	年齢層が近いこともあり、同様の課題を持った児が多い。そのため、共通の課題に対してのプログラムや声掛け、話し合いを持つことができる	未就学児の課題に対してより個性を持たせた支援ができるようにプログラムを構築していく。
3	<駄菓子コーナーの設置> おやつを自分で選んで購入することで、お金に触れる機械や選択する機会を設けることができる	貯めることの大切さや、お菓子をシェアすること、一定の金額でものを選ぶ経験をすることができている	金額の設定や、シェアする場合の条件などが児の中で公平になるようにスタッフがどう仲介するかなどスタッフ間でのルールを定めていく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<2階に事業所がある> 階段を上って事業所に来る必要があるためややわかりにくさがある	1階に別事業所があるため、長期休みの際に午前中はダイナミックな活動が行えない	午前中の活動構成を動を中心とした構成から静を中心とした構成にしていく。 動を得意とし、静を苦手とする対象児に対してどのように提供していくかがむづかしい。
2	<新しい事業所の為、整っていない部分が多い> 活動やご利用者さんに対する案内等、まだ未熟な面が多い	利用やお休み連絡、送迎等の組み換えなどに不備が生じることがある	長期稼働している施設様を参考にさせて頂いたり、スタッフ間で話し合いを行いながら、足りない面を補填してBEAMらしい形を整えていく。
3	<重度障害児の対応が難しい> 障害に関する知識が深いスタッフが少ないこともあり、重度障害児の対応が難しい	精神運動発達遅滞・強度行動障害に対する知識が未熟な面がある	月1回の勉強会での知識の補填、ケースカンファレンスでの児への対応方法の検討などを通して、知識のアップデートや入力を行っていく。